

食文化のちがいておもしろい！

～食を通してSDGsを考える～

氏名：萬年 真由美

学校名：山形県酒田市立西荒瀬小学校

担当教科：養護教諭

実践教科：外国語活動、社会、総合的な学習の時間

時間数：4 時間

対象学年：5 学年

人数：22 名

【実践概要】

【1】 単元(活動)名： 「行ってみたい国や地域」(外国語活動) 「わたしたちの生活と食料生産」(社会) 「おいしい米を育てよう」(総合的な学習の時間)		
【2】 単元の目標： <ul style="list-style-type: none">・他国の文化や子どもたちの生活を知ることにより、日本のよさに気づくことができる。・日本と他国の違いや課題がわかり、自分の生活を見つめ、改善することができる。・広い視野で世界全体を見つめ、世界に貢献する態度を養うことができる。 関連する学習指導要領上の目標 <p>(1) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。(外国語活動)</p> <p>(2) 社会的事象について、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。(社会)</p> <p>(3) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。(総合的な学習の時間)</p>		
【3】 単元の 評価規準	①知識及び技能	① タンザニアの文化や生活の様子がわかり、他国への興味、関心をもつことができる。 ② タンザニアで生活する子どもたちと自分の生活を比べ、日本との共通点や相違点を見つけることができる。
	②思考力、判断力、表現力等	① 自分の生活を客観的に見つめ、日本の良いところや課題について考えることができる。 ② 自分の考えや感じたことを自分の言葉で表現し、グループで発表することができる。
	③学びに向かう力、人間性等	① 課題を改善するために何をすべきかを考え、自分の生活を見つめ直すことができる。 ② 世界情勢に関心を持ち、広い視野で世界を見つめることができる。

【4】

単元設定の理由・単元の意義(児童/生徒観、教材観、指導観)

【単元設定の理由】

世界に関心をもつことが国際理解の第一歩であると考え。国際理解についてアンケート調査を実施したところ、他の国に行きたい、興味があると答えた児童は67%と過半数以上を占めた。また、外国のことを知りたいと答えた児童は62%だった。理由としては、「外国の人がどんな生活をしているか気になる」「日本と違うところを知りたい」「外国の人としゃべって仲間になりたいから」など積極的なものが多かった。しかし、「外国のことを知るのが面倒」「そんなに意味がない」などと答えた児童もあり、アンケートの回答には個人差がみられた。

世界にもっと興味・関心をもち、目を向けてもらいたい。タンザニアの子どもたちの様子を紹介することにより、日本との違いがわかり、日本のよさに気づかせたい。また、わたしたちが直面している課題（食品廃棄やゴミ問題）にも触れ、自分たちの生活の中で心がけられることを話し合い、これからの行動につながるようにしたい。この単元での学習を通して、一人ひとりの小さな行いがSDGsの目標達成につながり、世界貢献への第一歩となっていることを伝え、共に考えていきたい。

【単元の意義】

本単元を通じて、世界の国々に関心をもってもらいたい。他国と比較することにより日本の魅力を再発見し、課題解決する意識をもち行動につなげていきたい。文化の違いを認めながらお互いの価値観を尊重できる児童を育てることを目標としていきたい。

【児童観】

5年生の児童数は男子10名、女子12名、合計22名である。学級の雰囲気は明るく、活発な児童が多い。何にでも積極的に取り組む児童が多い。

外国語活動の授業を通して外国語や外国の文化に触れる機会はあるが、情報量が不十分なこともあり、世界の人々や国々に関して考える機会はあまりなかった。しかし、アンケート調査の結果「他の国に興味がある」と答えた児童が67%を占めたことから、外国に対しての興味・関心は高いと言える。授業実践をしていく上では、子どもたちの「新しいことを知りたい」という気持ちを大切に授業展開をしていきたい。

総合学習では1年間を通して稲作について学習を進めてきた。収穫時期を迎えるこの時期を効果的に活用し、お米を通してタンザニアと日本の文化の違いに触れさせたい。

学校全体では、給食の残菜が目立つ日がある。特に、魚や野菜の献立の日は顕著である。タンザニアの給食の様子や食事情、世界の食卓を比較することにより、食べものについて改めて考え、SDGsの目標達成に貢献できるような意識付けをしていきたい。

【指導観】

本単元では、授業者が実際に体験したタンザニアの魅力を児童に伝えるとともに、日本との違いを感じ取ってもらえる機会としたい。写真などの映像を通して、タンザニアと日本の文化や生活習慣の違いを知ることにより、日本のよさを再発見させたい。また、自分たちの日常の生活では「あたりまえ」となっていることでも、世界に視野を広げると生活習慣や食習慣などに違いがあることに気づかせたい。

また、給食主任という立場から、食のありかたについても考えを深めさせたい。現地で目の当たりにしたタンザニアの食事情を子どもたち伝えることにより、日本との違いを見つけ、自分たちの置かれた環境に目を向けてもらいたい。さらに世界に目を向けて食文化の違いについて考えさせたい。恵まれた食生活をしているわたしたちであるが、SDGsの目標を解決するためには何ができるかを自分たちで考えさせたい。課題を解決するためにできることを意見交換することで視野がますます広がっていくのではないかと考える。最終的には自分の生活を見直し、改善できる能力や資質を養うことを目的としていきたい。

【5】単元計画（全4時間）			
時	『小単元名』・学習のねらい	学習活動	資料など
1 外国語	『世界の中で生きているわたしたち』 ・コミュニケーションスキルについて考える。 ・国際理解に関するアンケート調査を実施し、話し合いを行う。 ・グローバルな視野で自分を見つめる。	<ul style="list-style-type: none"> アンケート調査の実施（英語の勉強は役に立つか、外国に行ってみたいか、外国のことを知りたいか、今世界で一番問題になっていること、就きたい職業、大切なもの、幸せか、幸せと思うときは、困っている人に何かやってあげたいか、世界のために何かできるか） 「最も使用される言語ランキング」クイズ 英語が話せると便利、世界ともつながることができることを伝える。 アフリカのイメージを出し合う。 アフリカの小学生に質問したいことを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> アンケート用紙 世界地図掛図 地球儀 言語ランキング表
2 外国語	『日本とタンザニアのちがいをみつけよう』 ・タンザニアの映像を見ながら日本との違いを比較する。 ・タンザニアと日本の違いについてグループで出し合う。 これからの生活で見直していきたいことを話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> パワーポイントの映像を通してタンザニアについて詳しく知る。 タンザニアの映像を見ながら、日本との違いについて比較することができる。 タンザニアと日本の違いについて考えたことや感じたことをワークシートに記入する。 グループで話し合いを行う。違いについて考え、これからの生活で見直していきたいことを意見交換し、深め合う。 グループ代表が話し合った内容を発表する。 今日の授業をふりかえる。 	<ul style="list-style-type: none"> パワポ資料 ワークシート パソコン テレビ
3 総合 本時	『食文化のちがいで知ろう』 ・日本とタンザニアの米を比較し、違いを話し合う。 ・タンザニアの食文化に触れる。（ウガリ作りをし、試食する。） ・バナラビーンズについて知る。	<ul style="list-style-type: none"> タンザニアの食文化を体験することを話す。 5年生の米、アフリカの米を比較する。 米の形、手触り、匂いの違いを確かめる。 実際に試食し、違いを確認する。 色、匂い、味、食感、粘りに違いはあるか？ 米の違いをグループで話し合い発表する。 ジャポニカ米とインディカ米の種類や産地の違いについて説明する。 米の種類により適した調理方法が違うことを確認する。 自分たちでウガリを作り、手で食べてみる。 食べ方をJICAスタッフに指導してもらう。 バナラビーンズの生産について話をする。 バナラビーンズを使ったプリンを試食する。 ふりかえりを書き、学んだことを発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 5年生の米 タンザニア米 ウガリ材料 バナラビーンズ プリン ホワイトボード ワークシート
4 社会	『食品ロスについて考えよう』 ・世界の食卓を比較することにより、日本の食糧事情について理解できる。 ・食品ロスやごみ問題を通して自分の生活を見直し生活を改善していくことができる。	<ul style="list-style-type: none"> 世界の食卓の写真を発問の順に並べる。（豊かだと思ふ順、ごみが出そうな順） タンザニアと日本の給食事情を比較する。 給食の残菜データについて提示する。 世界の食糧自給率をクイズ形式で回答。 世界で食べ物に困っている割合を予想する。 食料の廃棄率について予想し考える。 台所から出る1週間のごみの量を提示し、ごみ問題についても考えさせる。 これからの生活で「一人ひとりができること」「気をつけていきたいこと」をグループで話し合う。 話し合いの内容をグループでまとめる。 グループの代表が発表をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の食卓の写真 パワポ資料 給食の残菜グラフ 1週間のごみ パソコン テレビ

【6】授業の展開（1時間目） 世界の中で生きているわたしたち			
本時のねらい：①コミュニケーションスキルの大切さがわかる。 ②世界に興味関心をもち、自分自身の生活や将来について考えることができる。			
過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (10分)	①アンケートに答える。(言葉や世界への関心について) ②「最も使用される言語ランキング」クイズ ・ランキングを当ててもらおう。 ・事例を出し、言葉について具体的にイメージしてもらおう。 ・英語はコミュニケーションとして使えるスキルであるということがわかる。 ・英語だけが重要というわけではない。しかし、世界の人口の20%の人が英語を話す。 ・英語が話せると便利、就職してからも世界の人々とつながることができる。 ・今は、研究や医療、ビジネス、スポーツの社会でも英語が共通語となっている。	・ランキングにある言語のイメージもてるように、どのような言語か具体的に提示する。	・アンケート用紙 ・ランキング表
展開 (30分)	③アンケートに答える。(あなた自身のこと) ・質問をピックアップし、グループごとに話し合う。 ★世界で一番問題になっていること ・グループの代表者が発表する。 ④アンケートに答える。(アフリカのこと) ⑤ タンザニアに海外研修に行くことを話す。 ・タンザニアの場所を確認する。(世界地図掛図) ・アフリカのイメージを出し合う。 ⑥タンザニアの小学生(3年生程度)に聞いてみたいことを書く。 ・交流のための「しおりづくり」をすることを話す。(朝の活動)	・出された意見をグループでホワイトボードにまとめる。 ・6グループ(3~4人)で話し合う。 ・出された意見について必要であれば、補助説明を行う。	・ワークシート用紙 ・地球儀 ・世界地図掛図 ・地図帳 ・しおりづくりの材料
まとめ (5分)	・今日の学習をふりかえる。 ・次回は、タンザニアに研修に行ったあと、アフリカについて紹介することを話す。		
【7】評価規準に基づく本時の評価 児童の世界への興味関心、知識などの実態を把握するためにアンケート調査を行った。外国に興味関心があると答えた児童は67%と過半数を超えた。世界の中で現在問題になっていることの質問については、政治や環境問題について答えた児童が多かった。アフリカの国々については認知度が低く、イメージすることでは、野生動物、ピラミッド、砂漠、水不足などと答えた児童が多かった。			

【6】授業の展開（2時間目） 日本とタンザニアのちがいを見つけよう

本時のねらい：①タンザニアの映像を見ながら、日本との違いを比較することができる。

②これからの生活で見直していきたいことを意見交換し、考えを深めることができる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・担任からタンザニアの授業を行うことを説明してもらう。タンザニアと日本を比較し、文化のちがい(学校生活や食やお米など)について話をすること、自分たちの生活と比較して考えてもらいたいことを話してもらう。 		
展開 (37分) スライド 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・タンザニアの子どもたちの学校生活、学習教科、国家試験、休み時間の様子、昼食、トイレの衛生状態、飲み水、休日の生活、好きな食べ物、身なり、大切にしているものなど映像を使い説明する。 ・子どもたちからの質問があれば答える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・タンザニアの子どもたちの生活について知ってもらう。 ・映像を見せる前に2つの視点を話す。 ① ちがいを比較 ② 生活で見直したいことを考える 	<ul style="list-style-type: none"> ・パワポ資料 ・クイズ資料
記入 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・タンザニアと日本を比較し、気づいたことをワークシートに記入する。 ・自分の生活と比較し、考えさせられたこと、これからの生活で見直したいことがあれば記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに記入する際に担任からも支援してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート
話し合い 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで意見交換を行う。 ・ワークシートに記入した内容をもとにグループで話し合いを行う。 ・今後、自分たちの生活の中で見直していきたいことを話し合い、考えを深める。 ・グループで出された意見をリーダーがまとめ、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・出された意見をグループでホワイトボードにまとめる。 ・6グループ(3~4人)で話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホワイトボード ・マーカー ・ワークシート
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートに今日の授業をふりかえり、感想を書く。 ・次の時間は、タンザニアと日本の食文化やお米のちがいについて勉強をすることを伝える。 		

【7】評価規準に基づく本時の評価

現地の学校生活について話をした。子どもたちは日本との違いを比較しながら積極的にグループで意見交換をしていた。恵まれている状況に気づき、生活を見直したいという子どもが多くいた。

【6】本時の展開（3時間目）食文化のちがいについて知ろう

本時のねらい：①日本とタンザニアの食文化を比較し、違いを見つけることができる。

②食文化の違いについて体験的に学び、新たな発見をすることができる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (2分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業をふりかえる。 ・前は、日本とタンザニアの違いを見つけ、これからの生活で見直せることを話し合った。 ・今日は日本とタンザニアの食文化のちがいについて学習する。 ・本時の授業の流れをつかみ、見通しをもつ。 ・米の比較→ウガリ作り→バナラビーンズの話 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業をふりかえり、今日の流れを説明する。 ・試食用ごはんの準備をする。 	
展開 (40分) 米を触る	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の米とタンザニアの米を比較する。 ・A、B 2種類の米を準備する。外観でどちらが日本の米かタンザニアの米か予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで話し合う前に、Aが5年生の米、Bがタンザニアの米と伝える。 ・その後に各グループで違いを比較させる。 ・教員が各グループに声かけをしながら巡視 ・2～3グループが発表し、意見集約 	<ul style="list-style-type: none"> ・器に入れた米2種 A：5年生の米 B：タンザニア米
試食・意見集約 (10分) 発表・説明 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ① 外観の比較：色、形、におい ② 味の比較：味、におい、食感、粘り気、つや ・グループで違いや感じたことを出し合う。 ・出された意見をホワイトボードにまとめる。 ・出された意見をリーダーが発表する。 ・ジャポニカ米、インディアカ米の違いを説明 ・米の種類により調理方法が違うことを説明 	<ul style="list-style-type: none"> ・粘り気がないのでピラフなどに向く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・炊いたご飯2種 A：5年生の米 B：タンザニア米 ・お皿、箸人数分 ・ホワイトボード
調理時間 20分	<ul style="list-style-type: none"> ＜ウガリ作り＞ ・ウガリの作り方を実演して説明する。 ・各グループに分かれてウガリづくりをする。 ・グループごとにウガリを盛り付ける。 ・ウガリの食べ方を説明してもらう。 ・ウガリの試食をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の前で調理の仕方を説明し実演する。(中間休みに実施) ・調理のポイント説明 ・調理中、教員はグループを巡視指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作り方を掲示する。 ・ウガリ材料(ウガリ粉、お湯(鍋、へら、ふきんボール、皿)
試食 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・ムチュジと一緒に食べる。 ・試食した感想を聞く。 ＜バナラビーンズの話＞ ・バナラビーンズの生産のしかた、完成するまでの過程を写真を見せながら説明する。 ・バナラビーンズを実際に見せる。 ・バナラビーンズの匂いをかぐ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA スタッフから手を使った食べ方コツを教えてください。 ・ウガリを試食しながら話を聞く ・プリン は給食のときに試食する 	<ul style="list-style-type: none"> ・お皿、箸人数分 ・ホワイトボード ・掲示資料 *料理の違い
まとめ (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・(バナラビーンズの入ったプリンを試食。) ・今日のふりかえりを書き、感想を発表する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・試食用ムチュジ ・掲示資料 *バナラビーンズのできるまで。 *手間暇かかる。 *需要が伸び、高騰 ・試食用プリン ・ワークシート
			<ul style="list-style-type: none"> 【資料1】

【授業実践の様子】

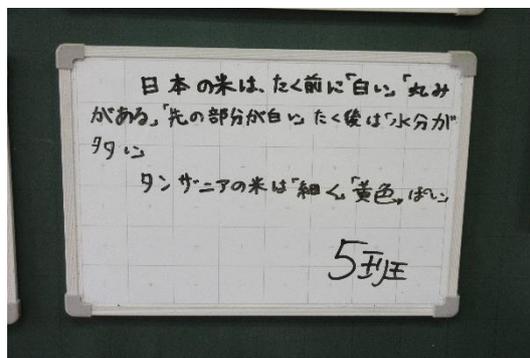
- 1 日本とタンザニアの米を比較する。形や色、五感も使って、米の特徴のちがいをみつけよう！
「どんなちがいがあるかな？」子どもたちの表情は真剣そのもの。



- 2 グループで米の特徴とちがいについて話し合う。



- 3 グループで出された意見を発表する。



- 4 ウガリづくりに挑戦！「ウガリを練るのは力があるね。」「なかなか難しい！」
「タンザニアの人は毎日作っていてすごいね。」



【授業実践の様子】

5 「やったー！ウガリが完成！」「おいしそうだね！」

海外研修に同行した鈴木先生、JICA 東北の清水さんから、手を使ってウガリを食べるコツを教えてください。「ウガリにくぼみをつけて、ムチュジをそのくぼみにのせていただきます！」



6 待ちに待った試食タイム！「意外といける！」「手で食べてもあまり気にならないね。」



7 バニラビーンズの話聞いてから、今日の学習をふりかえる。

「ウガリは、ムチュジと食べるとおいしかった。」「タンザニアで暮らせるかも？」との感想もあった。



【7】評価規準に基づく本時の評価

タンザニアと日本の米のちがいを外観だけでなく、味や匂いなど五感を使って観察し意見交換ができた。ウガリ作りでは、グループで役割分担をし、協力しながら調理をしていた。どの班も失敗しないで完成させることができた。試食の際は、JICA スタッフからウガリの食べ方の指導をうけ、タンザニア流に手で食べることを体験できた。最後の感想発表では、今回体験した食文化のちがいをもとに今の気持ちを率直に発表することができた。

【6】 授業の展開（4 時間目） 食品ロスについて考えよう

本時のねらい：①世界の食卓を比較することにより、日本の食糧事情について理解できる。

②食品ロスの問題を通して自分の生活を見直し、改善していくことができる。

過程・時間	教員の働きかけ・発問および学習活動 ・指導形態	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (3分)	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の授業をふりかえる。 ・今回は、日本とタンザニアの食文化のちがいについて勉強した。(米の比較、ウガリ作り) ・今日は、世界の食卓を比較しながら、日本の食糧事情について学習する。 		
展開 (37分) ランキングと発表 20分	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の食卓の写真5枚を6グループに分かれ、発問の順にランキングする。 ① 豊かだと思ふ順 ② ごみがたくさん出そうな順 ③ 自由テーマ (〇〇の順) ・グループのリーダーから順番に並べた理由もつけて発表してもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人で並べ替えたり多数決で決めたりしない。「話し合い」で決めることを確認する。 ・教員が各グループに声をかけながら巡視。 ・1つのテーマにつき、2グループ発表。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の食卓の写真5枚 ・ホワイトボード
スライド 10分	<ul style="list-style-type: none"> ・世界で食べ物に困っている割合を予想する。 ・日本の食料の廃棄率について予想し考える。 ・給食の残菜データのグラフを提示する。 ・台所から出る1週間分のごみを提示する。 ・リサイクル、リユース、リデュースについて話す。 		<ul style="list-style-type: none"> ・パワポ資料 ・クイズ形式資料 ・給食の残菜データ ・1週間のごみ
話し合い 7分	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドを見た後にグループで話し合う。 ・考えさせられたこと、これからの生活で見直したいこと、リサイクルなどについて意見交換を行う。 		
まとめ 感想記入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・今日のふりかえりを記入する。 ・今日の学習で考えさせられたことや今後、自分が生活の中で見直していきたいことを各自ワークシートに記入する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート

【7】 評価規準に基づく本時の評価

世界の食卓を比較しながら、食品ロスやごみ問題についてグループで意見交換をすることができた。どの児童も自分の生活で見直していきたいことを見つけ、今後心がけることを記入することができた。

【8】学習方法及び外部との連携

本単元の3時間目、「食文化について知ろう」公開授業の中でゲストティーチャーとして指導を依頼した。授業の中でファシリテーターの鈴木先生、JICA スタッフの清水さんから「ウガリ」の食べ方の指導をしていただいた。ゲストティーチャーからウガリを手で食べる方法を指導していただいたことにより、現地の食文化をより身近に感じることができた。子どもたちが手を使ってウガリを抵抗なく食べていたことも適切な指導があったためだと感じている。実際に手を使ってウガリを食べた体験は、子どもたちの心に残る貴重なものとなった。

今後も関係団体の方々と連携をとり、学びの深まる効果的な指導方法を工夫していきたい。

【9】学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取組

<西荒瀬小学校での実践>

1 全校朝会での講話

- ・7/17（水）海外研修前の講話「なつやすみチャレンジ」
- ・9/13（金）海外研修後の講話「MAYUMI'S なつやすみチャレンジ」パートⅠ街並み・食べ物
- ・9/18（金）海外研修後の講話「MAYUMI'S なつやすみチャレンジ」パートⅡ学校編

2 低学年（1～3年生）へのお話（学級活動）

- ・9/24（木）「タンザニアのこと もっとしてもらいたいな」

3 4年生児童へのお話（社会科）

- ・10/3（木）「水はどこから？日本とタンザニアのちがい」

<居住地域の小学校での実践>

1 全校朝会での講話 11/12（火）

「Karibu Tanzania!」パートⅠ 国・食べ物

2 高学年（4～6年生）へのお話（総合的な学習の時間）11/12（火）

「「Karibu Tanzania!」パートⅡ まちなみ・学校編

本校児童には、海外研修に行く前からタンザニアに行くことを全校朝会で伝えた。質問用紙を準備し、タンザニアの子どもたちに聞きたいことを募集した。また、アフリカに興味をもってもらえるように1階のホールに「タンザニアコーナー」を設け、本や写真、地図などを飾り情報発信をした。帰国後は、この「タンザニアコーナー」にタンザニアの子どもたちが使っている教科書や文房具、現地で使用しているお金や切手などを展示した。ティンガティンガやタンザニアの布などを展示することでより一層、タンザニアの文化を感じてもらえたと思う。

研修後の講話を全校朝会で行うことにより、全校児童や教職員からもタンザニアのことについて知ってもらうよい機会となった。朝会の中で話さきれなかった部分については、学年別に時間をとっていただき、発達段階に応じたテーマでより詳しく伝えることができた。

また、居住地域の小学生にタンザニアのことについて話をする機会を得た。アフリカのことをより多くの子どもや教職員に情報発信することができ、開発途上国を知ってもらうチャンスとなった。

【自己評価】

【10】苦勞した点

授業を進めるにあたり、担任の先生に時間設定や調整をお願いすることになり、ご苦勞をおかけした。貴重な時間を使わせていただき、本単元の指導をすることができた。担任の先生たちの配慮と協力に感謝したい。

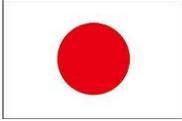
指導を行うにあたっては、日本と開発途上国を比較したときに貧しさや貧困を強調しすぎないような言葉を見つけるのが難しかった。また、不慣れな点もあり、授

	業で使用するパワーポイントや教材作成にかなりの時間を要した。
【11】改善点	<p>授業を実施しての課題としては、本時の活動の中に内容を盛り込みすぎた。米の比較と意見交換で思った以上に時間を使ってしまった。調理だけに集中して内容を絞ったほうが余裕をもってウガリづくりを体験できたのではないかと考える。また、バナラビーンズの話も別の時間を使い、指導の機会を設けたほうが効果的だった。</p>
【12】成果が出た点	<p>本単元を通して子どもたちは世界に興味をもち、視野が広がったのではないかと考える。タンザニアの現状を知り、開発途上国について考えるよい機会となった。また、改めて自分の生活を見つめ直すことにより、日本のよさを再発見できたのではないかと感じる。また、世界の食卓を比較することで日本が抱えている食品ロスやごみの課題について自分のこととしてとらえ、改善策を話し合うことができた。</p> <p>さらに、子どもたちを通して保護者の方々や地域にも情報を発信することができたことは成果のひとつと考える。タンザニアについて興味をもったことから、開発途上国の支援やSDGsの目標達成について考えるきっかけづくりとなった。</p>
【13】学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>日本とタンザニアの米の違いを比較し、タンザニアの主食である「ウガリ」を作ることで食文化の違いに触れることができた。百聞は一見に如かず、実際に自分たちで調理をし、現地の食べ方で試食をすることができた。子どもたちにとって貴重な体験となった。</p> <p>(児童の感想から)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本のお米はやわらかくて、タンザニアのお米はかたくてびっくりしました。日本とタンザニアの文化も違っていてもおもしろかったです。 ・同じお米でもタンザニアと日本では形や太さが違っていました。 ・ウガリづくりで一番大変だったのは、練る作業です。とても力が必要だし、こげるとだめなので休まずに練り続けるのが大変でした。 ・手で食べたときはベトベトしてはいやだったけれど、食べているうちに手が汚れても気にならなくなりました。タンザニアの人はこんな感じに食べているのだなあと初めて知りました。
【14】授業者による自由記述	<p>今回の研修に参加して得たことは数えきれない。研修で出会った人とのつながりは、教師人生の中で大きな財産となった。研修中に考えた「幸せのありかた」についてはまだ自問自答中であるが、機会あるごとに自分自身に問いかけていきたい。</p> <p>今後の開発教育の進め方としては、授業という枠を超えて指導を継続していきたい。特別活動や委員会活動なども視野に入れ、柔軟に機会をとらえながら研修の成果を発揮していきたいと考えている。</p> <p>最後に、今回の研修の機会を与え、協力してくださった JICA スタッフの皆様、関係機関の方々、西荒瀬小学校の教職員や子どもたち、保護者の皆様、私の家族すべての方々に感謝の意を表したい。</p>

参考資料：

- ・写真で学ぼう！地球の食卓 学習プラン 10 (特定非営利活動法人 開発教育協会)
- ・フードマイレージ どこからくる？私たちの食べ物 (特定非営利活動法人 開発教育協会)
- ・地球教室 2019 基礎編 (朝日新聞)
- ・世界の水問題 (独立行政法人国際協力機構 JICA 地球ひろば)

【資料1】



食文化のちがいについて知ろう



年 名前 _____

1 日本の米とタンザニアの米を比べてみよう。どんなちがいがあるかな？

<日本の米>

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

<タンザニアの米>

- ・
- ・
- ・
- ・
- ・
- ・

2 ウガリを作って食べてみよう！

<ウガリの作り方>

★材料

- ・ウガリ粉（とうもろこしの粉）1カップ
- ・水 300cc（調整用としてお湯50ccを用意しておく）
- ・オリーブオイル 大さじ1杯

★作り方

- ① なべにお湯をわかす。お湯が沸騰したら、一握りのウガリ粉をパラパラと入れて熱湯となじませる。
- ② 中火にして残りの粉もカップからゆっくりサラサラと入れる。
- ③ 中火のまま5分間ねり続ける。ウガリが固いときは、調整用のお湯を少しずつ足す。
- ④ オリーブオイルを入れる。丸をかきながら流し入れ、すぐにねる！
- ⑤ ウガリがしっかりねれたら、表面を平らにして弱火～中火で5分間放置する。
- ⑥ なべの内側がキツネ色になって、おせんべいのような、こげたにおいがしたら皿に移して5分待つ。

3 今日の学習をふりかえり、感じたことを書きましょう。

添付資料：使用したパワーポイント資料

【資料2】（4時間目 食品ロスについて考えよう）

食品ロスとゴミについて 考えよう

★日本の貧困率は何パーセントかな？

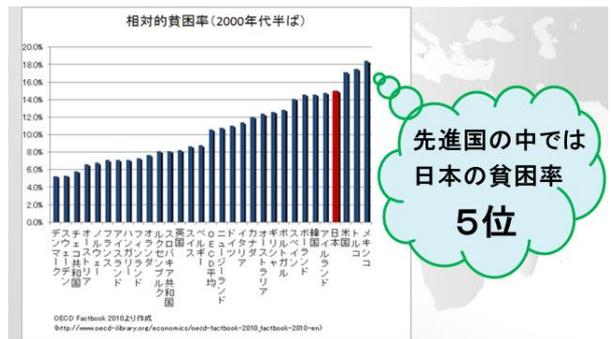
- ① 8%
- ② 16%
- ③ 25%

こたえ② 16% → **世界のランキングは162カ国中120位。最下位は台湾の15%**

日本人は、7人に1人が貧困と言われている。

貧困率の高い国

- 1位 チャド 80%
- 1位 リベリア 80%
- 1位 ハイチ 80%
- 48位 タンザニア 36%



食品はいき率

日本の食品ロス = 年間 **646万トン**

- 事業系 357万トン
 - 売れ残り
 - 期限外品 など
- 家庭系 289万トン
 - 食べ残し など

毎日 大型トラック 1,700台分

1年間約6万円
1か月約5千円

一人あたり毎日約200gの食品ロスを出しています。

食べ物をすてる理由

家庭から出る生ごみのうち、約3割がまだ食べられるのに廃棄されている!

調理くず 68% (皮・骨・種など)

食べ残し 11% (作りすぎ、食べ残し)

過剰除去 15% (使えぬのに多く取り除いてしまったもの)

手つかずの食品 4% (冷蔵庫などに入れたまま期限切れとなった食品)

食品以外 2%

出典:平成25年度松本市食品ロス調査

「魚」や「やさい」の のこりものが多い。



プラスチックごみ 日本人1人あたりはいき量は？

1年間 **32キログラム**
アメリカについて世界2位

***79.8%が知らなかったと答えた**

世界の食卓を通して食べ物やごみのことを考えることができたかな？

家族と一緒に話ができるといいね!

自分の生活で見直せることはあるかな？

おいしく残さず食べよう!